

コロナ入院 6096人

新規患者 10歳未満が最多

厚生労働省が14日公表した「医療機関等情報支援システム」(G-I-MIS)のデータによると、全国の新型コロナウイルス感染症の新規入院患者が直近の1週間（3～9日）で6096人に達しました。5月の5類への移行後、新規入院患者は、おおむね毎週200～4000人台で推移してきましたが、前週（7月2日までの1週間）では5494人になりました。（いずれも速報値）

(ICU) の入院患者数は前週比6人減の87人、ECMOなど人工呼吸器による管理中の患者数は3人減の50人でした。

5類移行後、厚労省は、新規感染者数について従来毎日実施していた全数把握調査を取りやめ、全国約5000の定点医療機関からの報告に基づく「定点把握調査」を実施するにとどめています。

では東京が最多の3152人、年代別では10歳未満が最多の7617人を占めました。

定点医療機関当たりの平均新規患者数は、沖縄県が前週比で6・7人減ったものの、41・7人と依然として全國最多を記録。一方

鹿児島県は前週比3・7人増の17・2人と、5週連続で全國2位となっています。

限定的な定点把握調査などでも感染者の入院患者の急増が続いていることから、実際にさうに感染が拡大している恐れがあり、医

療逼迫（ひっぱく）などによる医療現場への影響が懸念されます。政府も岸田文雄首相が

14日、関係閣僚を緊急に集めて対応を協議するなど、警戒を強めています。